

乳製品需要等情報交換会議概要

日時：平成30年1月26日（金）

場所：（独）農畜産業振興機構 北館6階会議室

主な意見：

（ホクレン）

- ◆ 北海道の生乳生産量は前年同を上回る現状。今後もこの状態を維持していきたい。子牛の死産防止対策等により乳牛頭数が増えてきている。

（東宗谷農業協同組合）

- ◆ 主産地の生乳生産量は前年を上回っている。クラスター事業等により生産体制も整備されてきており、乳牛頭数は伸びていくと考えている。昨夏の台風の影響はそれほどなく安心している。

（中央酪農会議）

- ◆ 都府県の生乳生産量は減少傾向で推移しているが、乳牛頭数は昨夏頃から増加傾向にあり、今後も様々な対策を講じて、生乳確保に努めたい。

（卸売業者）

- ◆ 国産バターの生産量が減少する見込みとのことで、特に家庭用バターについては業界の取り組みを期待している。来年度も業務用バラバターの安定供給には輸入品が重要と考えている。脱脂粉乳は指標となる在庫量6万トンを念頭に市場への安定供給に努めたい。

（日本洋菓子協会連合会）

- ◆ 混乱なく、クリスマスを迎えることができた。バターは不足なく、本会議を通じた情報を会員に広く共有したことにより、早めに計画を立てて対応できた。

（全国菓子工業組合連合会）

- ◆ 安定的に供給されている。国産バターの引き合いは強いので、生産者の努力に期待する。

（全日本洋菓子工業会）

- ◆ 安定的に供給されている。本会議を通じた情報提供により、現場は安心できている。酪農家の減少等の構造的な課題はあるものの、今後とも安定的な供

給に努めていただきたい。

(日本パン工業会)

- ◆ 国産バターを使いたいという要望は強い。引き続き生産者の方々には期待したい。

(日本乳業協会)

- ◆ 脱脂粉乳、バターの需給には引き続きギャップ（生産が需要を下回る）がある。次年度も十分に輸入していただけるということで安心している。脱脂粉乳もバターと同様に定期的な入札を実施していただきたい。

(Jミルク)

- ◆ 本年度実施している生産基盤強化については、来年度も実施していく。